

運動が苦手でも 「運動やスポーツを楽しい と 感じて いる 児童 生徒 が 多い 学校 の 取 組 事 例

ここでは、体力総合評価DE群でも「運動やスポーツを行って楽しいと感じたのは、どのようなときですか（複数回答可）」（質問2）において、平均より多くの項目を選んだ児童生徒が多い学校の取組を取材し、子供たちが楽しさを味わうことができる授業づくりのヒントとなる工夫やポイントについて紹介している。なお、掲載した事例校は、上記の特徴のほか、「運動・スポーツが苦手（嫌い）な傾向にある児童生徒向けの取組、または性別に応じた取組を現在行っていますか」（学校質問3）で「行っている」と回答し、「体育（保健体育）の授業で努力を要する児童生徒がいる場合に、どのような取組をしていますか（複数回答可）」（学校質問11）において5個以上の取組を行っていると回答した学校である。

「運動やスポーツを行って楽しいと感じたのは、どのようなときですか（複数回答可）」（質問2）の平均選択数（14項目中）

小学校

性別	総合評価	平均選択数
男子	児童全体	6.6
	AB群	7.5
	DE群	5.6
女子	児童全体	6.9
	AB群	7.6
	DE群	5.8
男女計	児童全体	6.8
	AB群	7.5
	DE群	5.7

中学校

性別	総合評価	平均選択数
男子	生徒全体	5.4
	AB群	6.2
	DE群	4.5
女子	生徒全体	6.1
	AB群	6.8
	DE群	4.4
男女計	生徒全体	5.8
	AB群	6.6
	DE群	4.5

仲間とともに運動やスポーツの楽しさを学ぶ

三重県三重郡川越町立川越中学校

School Data

全校生徒数	398名 (男子201名 女子197名)
全クラス数	14クラス (内特別支援級2クラス)
教職員数	27名
体力評価DE群の「運動が楽しいとき」平均選択数	8.1個 (全体平均4.5個)

取組時の課題と目的

Plan

1 取組時の課題

「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果によると、2年生全体の体力・運動能力は男女ともに全国平均より高いものの、総合評価DE群の生徒が2割程度いるのが現状である。

総合評価DE群とされる生徒たちが、授業の中でどのように運動やスポーツを楽しみ、体力の向上に結び付けられるかが課題である。

2 取組の目的

(1) 仲間との教え合いを通した授業づくり

学級単位での男女共習授業を行い、グループ活動の中での教え合いを通して、仲間と助け合いながら、粘り強く取り組めるようにする。

(2) 全ての生徒が安全・安心に楽しく取り組むことができる授業づくり

自己や仲間の体調を把握すること、ルールやマナーを守ること、自分に合った練習方法や場があること、仲間の頑張りを認め、応援する雰囲気を大切にするなどを通して、全ての生徒が安全に、安心して楽しく取り組めるようにする。

取組の内容

Do

1 グループ活動を通した指導の工夫

体力や技能の程度、性別の違いなどに配慮したグループ（男女混合や総合評価DE群とされる生徒を各グループに配置する等）を編成するようにし、グループ活動の中で、一人一人の違いの理解や助け合う気持ちを育むことができるようにしている。

2 「学習カード」を活用した指導の工夫

(1) 単元のねらいや単元の見通しを明示

単元の最初の授業では、オリエンテーションを行い、単元のねらい（身に付けたい力）や単元の流れを示し、生徒が単元における授業の見通しをもてるようにしている。

(2) 単元で学習する知識の明確化

運動の特性や成り立ちなどの知識の学習を通して、領域ごとの運動の楽しさを理解できるようにしている。

(3) 「運動の行い方」を視覚化

運動の行い方を視覚化するとともに、各運動の一連の動きがどの程度達成できているかを仲間にチェックしてもらい、出来映えや課題を確認できるようにしている。

(4) 「生徒の気付き」の共有

学習カードに記述している「生徒の気付き」などをクラス全体で伝え、仲間の考えを共有することで、課題発見や課題解決につなげられるようにしている。

(5) 本時の振り返り

毎時間の授業の中で工夫したことや気付いたこと、課題などを振り返られるようにしている。

3 仲間との助け合いや話し合う活動の工夫

(1) 仲間と助け合う活動（例：器械運動、陸上競技）

グループ活動を通して自己や仲間の課題解決に向けた練習をする中で、技や運動の行い方のそれぞれのポイントに対する出来映えをグループで確認し合い、仲間の頑張りを認めたり、励ましたりする声かけや仲間へのアドバイスをを行った。

(2) 仲間と話し合う活動（例：球技、ゴール型）

自己やチームの課題を発見し、解決するなどの話し合いの場面において、話し合う内容を明確にし、全ての生徒が意見を出することができる内容にすることに留意した。

4 全ての生徒が安全・安心に楽しく取り組むことができるよう、自己の体力や技能に合った練習や場を選ぶ工夫

(1) 陸上競技（ハードル走）

インターバルを「6.5m」「7m」、ハードルの高さを2段階に設定するなどして、個々の走力や技能に応じて選択できるようにした。

(2) 器械運動（マット運動）

ロングマットを使用するとともに、武道で使用している投げ込みマットを活用した場を設定したり、跳び前転を練習する場ではフラフープの輪の中を飛び越え

るコースをつくったりして、個に応じた練習方法や場の工夫をした。

(3) 球技：ゴール型（バスケットボール）

授業の始めに、仲間と楽しく行うことができる練習を自分のペースで行ったり、チャレンジしたりできるようにした。

取組成果の評価

単元ごとの学習カードを活用して、授業の見通しや運動の行い方を視覚化したり、自己の記録や思考したことを記述したりすることで、学習した経過を振り返りながら自己の習得度を確認する姿が見られた。

グループ編成を工夫し、一人一人の違いを理解する

指導をしたことで、仲間のことを応援したり、教え合ったりするような姿が見られた。また、話し合いの場面では、運動が苦手な生徒も安心して自分の意見を伝える場面が見られた。

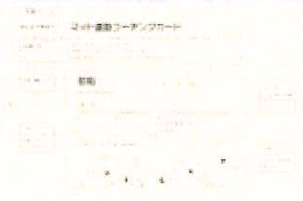
今後の課題

義務教育終了段階において、多くの生徒が保健体育の授業を通して運動やスポーツの楽しさを味わうことができているように感じている。

今後は、運動やスポーツへの多様な関わり方や楽しみ方などの指導方法の工夫改善を図り、「生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現」につなげられるようにしていきたい。

「学習カード」を活用した指導

単元ごとに学習カードを用意して
運動の行い方を視覚化



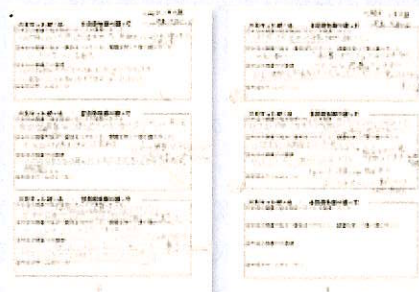
マット運動



ハードル走

運動の特性や成り立ちなどの知識を学ぶことで、領域ごとの運動の楽しさを理解できるようにしている

授業の工夫や課題を振り返る



学習カードで毎時間の授業での課題や気づきを振り返られるようにしている



「生徒の気づき」をクラス全体に共有して、課題の発見や解決につなげる

仲間との話し合いや 楽しく取り組める授業の工夫

前回の振り返りと主体的な目当ての設定



目当てを設定することで、仲間との話し合いの中で話し合う内容が明確になり、全ての生徒が意見を出しやすくなる

話し合う活動



仲間と話し合いながら、自分やチームの課題を発見し、解決へ導く

全ての生徒が楽しく取り組める工夫

バスケットボールでは、仲間と楽しく行うことができる練習を取り入れた

